

近畿ブロッククラブネットワークアクション 2019 開催報告

日 時：令和元年 11 月 23 日（土・祝） 10：00 ～ 16：35

会 場：帝塚山大学 学園前キャンパス

内 容：テーマ：『クラブでのコミュニティづくりを考える

～体験してクラブの活性化に繋げよう～』

1. 共通プログラム

「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

2. 独自プログラム<基調講演>

「アドベンチャー活動を用いたチーム・ビルディングの取組みについて

－豊かな地域コミュニティの創造と問題解決ができるクラブをめざして－」

3. 独自プログラム<グループワーク>

「コミュニティ・ビルディング」

4. 独自プログラム

「個別プログラム受講」

5. 独自プログラム

「パネルディスカッション」

6. 共通プログラム

「日本スポーツ協会からの情報提供」

参加者：97 名

【概要】

総合型地域スポーツクラブの運営において、クラブ内で風通しの良い良好なコミュニティを築くと共に、そのコミュニティを長期的に維持することは非常に重要です。良好なコミュニティが基盤にあると、クラブ活動の更なる活性化が期待できます。近畿ブロックでは、「クラブでのコミュニティづくりを考える～体験してクラブの活性化に繋げよう～」をテーマに、体験型プログラムなどを通してクラブの活性化に繋げる機会とする研修会を開催しました。また、本年度も「府県の枠を越えたネットワーク！共に築き、共に成長する」を合言葉に掲げ、近畿ブロック内のクラブが一堂に会し、知識を深め、交流を深めることで、ブロック全体のレベルアップを図る機会としています。

【内容】

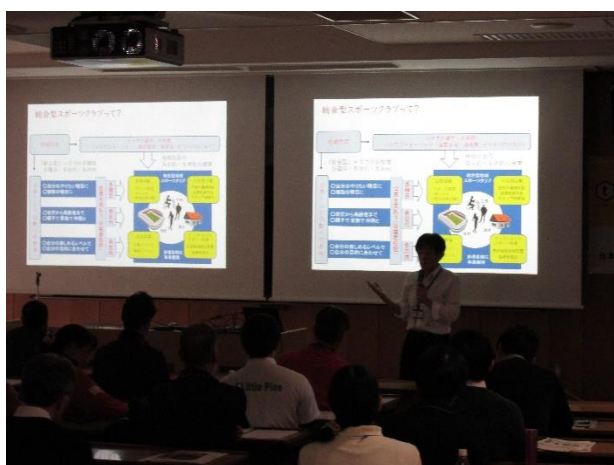
1. 共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

全ブロック共通のプログラムとして、総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有を行いました。

実行委員長の大原から制度創設の経緯・意義について、日本スポーツ協会事務局から制度の具体的な内容について説明を行った後、質疑応答を行いました。

2. 独自プログラム<基調講演>

帝塚山大学心理学部心理学科教授の川合悟先生から「アドベンチャー活動を用いたチーム・ビルディングの取組みー豊かな地域コミュニティの創造と問題解決ができる総合型スポーツクラブをめざしてー」と題した基調講演が行われました。持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するためには、「豊かなコミュニティを造ること」と「早期に問題解決ができること」が大切である一方で、地域コミュニティのチーム力は近年低下してきていること。総合型地域スポーツクラブがコミュニティとして機能するために、「アドベンチャー活動」を通してクラブを成長させることが可能であること。「アドベンチャー活動」は一律のものではなく、体験するチームの成長度合いや参加者のレベルに応じたプログラムの提供が可能であること、などのお話がありました。多世代や多志向の理念で活動している総合型地域スポーツクラブは、多様な形態によって地域で活動しているところですが、それぞれのクラブの結束力や団結力を高める一つの方法として「アドベンチャー活動」を体験するなど、今後の活性化に繋げていくための示唆を得る貴重な機会となりました。



3. 独自プログラム<グループワーク>

「コミュニティ・ビルディング」をテーマに、参加者は5～6人のグループに分かれ、昼食を食べながら意見交換等を行いました。まずは自己紹介の後、①今の気分は？②どこから来ましたか？③あなたにとってのコミュニティ・ビルディングとは？の3つの質問にそれぞれの参加者が答えて共有し、適宜質疑応答などを実施しました。元帝塚山大学心理学部の宮川治樹先生と梅光学院大学文学部の難波克己先生にファシリテーターとしてグループを巡回いただき、円滑に意見交換できるよう補助していただきました。



4. 独自プログラム「個別プログラム受講」

① 心地よい関係づくりプログラム

元帝塚山大学心理学部の宮川先生を講師として、簡単なウォーミングアップの後、相手とのお互いに不快に思わないコミュニケーションの取り方や、自身の受け取り方の転換によるコミュニケーションスキルの向上方法などを、実技を交えてご指導いただきました。

② やる気を引き出すファシリテーション

梅光学院大学文学部の難波先生を講師として、アイスブレイクのグループワークの後、1対1やグループで体を動かしながら、チーム内での声かけの仕方やポイント、参加者がついやる気になってしまう指導の仕方などをご指導いただきました。

③ アドベンチャー・ロープコース体験

帝塚山大学全学教育開発センターの小西浩嗣先生、玉川大学リベラルアーツ学部の関智子先生、基調講演いただいた川合先生を講師として、参加者は2グループに分かれて、チームでのボルダリング体験や高所綱渡りなどに取り組みました。相手を信頼しながら少しずつ困難な課題にチャレンジすることで、チームの関係性やパフォーマンス度合いが高まっていくことについて、実技を通してご指導いただきました。



5. 独自プログラム「パネルディスカッション」

個別プログラムを受講した参加者の中から、各府県1名がパネリストとなり、先生方にコーディネーターを務めていただき、パネルディスカッションを実施しました。

パネリストは個別プログラム①を受講された滋賀県のいぶきスポーツクラブ 西脇さんと兵庫県のスポートクラブ道場 木元さん、個別プログラム②を受講された和歌山県の特定非営利活動法人憩楽クラブかつらぎの山下さんと大阪府のNPO法人せつつブルーウィングス 鈴木さん、個別プログラム③を受講された京都府の特定非営利活動法人紫明倶楽部 中村さんと奈良県のNPO法人楽スポあすか 辰巳さんの6名で、それぞれがプログラムを体験しての感想や今後自分のクラブに活かせるような内容等を発表いただきました。その後川合先生から改めてアドベンチャー活動の意義や目的をお話いただくことで、振り返り・確認の場を持つことができました。



【まとめ】

共通プログラムの「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」では、日本スポーツ協会からも制度創設に向けた現状や今後の方針の説明があり、参加クラブが制度概要を確認する機会になり、疑問点などを直接確認することができる貴重な機会となりました。

独自プログラムの基調講演では、「アドベンチャー活動」の目的や意義を踏まえて、総合型地域スポーツクラブという「コミュニティ」の活性化に繋げることができることを示唆いただき、グループワークを通して参加者同士が「コミュニティ」について意見交換をしてから、具体的に個別プログラムで3つのプログラムから参加者が選択した「アドベンチャー活動」を体験し、自らが体験しながら学ぶことのできる貴重な機会となりました。

その後のパネルディスカッションを通して、体験プログラムだけでなく、基調講演からの一連の独自プログラムの振り返りを行うことができ、総合型地域スポーツクラブの「チーム力」を高める大切さを参加者が再確認できる機会となりました。

総合型地域スポーツクラブは、令和3年度から始まる「登録・認証制度」を見据えた大きな転換期を迎えています。しかし、理念は地域による地域のためのスポーツクラブであることには変わりません。地域にしっかりと根付いた結束力や成長力のあるコミュニティとしての総合型地域スポーツクラブを築いていくことが必要であるということを、再確認できる研修会でした。近畿の府県という枠を越えて、総合型地域スポーツクラブの活性化について議論することで、近畿が一つとなって、共に築き、共に成長することができると思います。

※本ネットワークアクションは、東京 2020 応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。

